

して評価していなかった。

カナダ人作曲家についても同じことが言える。交響楽団の収入源はコンサートの入場料。ところがマネージャーの中には、曲目に近代音楽（特にカナダの近代音楽）を含めると入場者が少なくなると考えている人が多く、できるだけそれを見せようとする。作曲家に手を差し伸べてくれた唯一の関係機関は公営放送のCBCだけだった。CBCは放送用に多くの作品を作曲家に作ってもらったのである。

これはいくらか助けにはなったが、作曲家たちは自分たちの音楽をもっと多くの人々に聴いてもらおうと、およそ二十年前、カナダ作曲家協会を組織した。このグループは大きな勢力となり、現在では一般向けのコンサートで演奏されるカナダ人作曲家の作品は以前より多くなった。

このように、演奏者も作曲家も育ったところが、指揮者となると主だったところはすべて外国人だ。大劇団や歌舞伎団の監督も同様である。（カナダでオペラが演じられたのは、比較的最近のことであるが、その発展はめざましい。その理由のひとつは、当然ながら、主要都市にいい交響楽団があるからである。）

カナダの音楽は、いまひとつの頂点に達した。さらに次の段階へ進むには、政府に文化団体への補助をふやしてもらい、また芸術に関する政策決定をカナダの音楽家およびその他の芸術家にゆだねてもらわなければならない。これが可能なところまでわれわれは来ているものと、私は心から信じている。国民同胞のそうした認識があつてはじめて、世界の芸術界もわれわれに目を向けてくれるだろう。

●書評●

「河と湾のかなた」

Beyond the River and the Bay, by Eric Ross
(University of Toronto Press, 1970)

京都産業大学助教授 田村 謙二

この書は、一八一一年におけるカナダ北西部全体を、歴史的・地誌的に考察したものである。一七七一年にエンジンバラで生まれたアレキサンダー・ベル・ロバートソンという人が書いたという設定をしているように、すべて一八一一年という視点で記述している。豊富な資料を駆使し、緻密な時代・地誌考証を加えながら、文章はきわめて平明で、当時のカナダを生き生きと描いているのが特徴である。

内容は本文が八章から成る。まず第一章で、当時の「ノース・ウエスト」の地誌学的区分を行っている。これは一八一一年、ロンドンの地誌学者、アロー・スミスが、「ノース・ウエスト」地方（こ

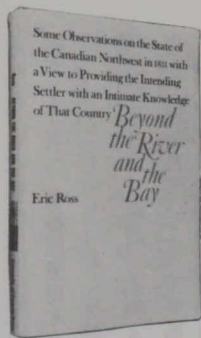
の地域の境界については正確に述べられていない）の地図を作製したお陰に依るものである。しかし、この地図作製者は、実地旅行探査を行わず、すべて当時この地域に踏み込んだ、セルカーク卿をはじめ、幾多の探検家、測量技師、毛皮商などがもたらした最近の情報や、「インディアン・マップ」を基礎に作製したものである。彼等は、エスキモー、インディアンを案内役に、一七八四年から一八一一年までに、この地方を五万マイル、面積にして一七〇万平方マイルの道程を、カナヌ、馬、徒歩で踏破している。アロー・スミスの地図は、ヨーロッパからやってきた毛皮商達にとって大変有用なものであり、これにより彼等はカナダ北西部の地形的特徴を知ることができた。

この地方には、地形的に「湖水の谷間」、河、湖の「水路系」があるが、これが探検家や毛皮商にカナヌで旅行することを可能にしてくれたことは、自然の恩恵ともいふべきであろう。しかし彼等は、この広大な空間を「自然の暴威」とのかかわりにおいて、まず迅速にそれを防ぐ共同の手段に入り込んで行かねばならなかったに違いない。ここでは人間は、自然の恩恵を待つのではなく、能動的に自然の内に攻め入って、自然からわずかの獲物をもぎ取るのである。

自然はこの北西部の各地に特有の動物を棲息させていて、この動物分布（参照七七八頁）によって、各地に散在する原住民の生活方法が、ある程度決定されてしまうのである。人間はいかなる地方に移されようとも、そこでの生活様式は、それが産んだ風土に規定される事実是否

定出来ないからである。

北西部の苛酷な自然の風土は、ヨーロッパからきた白人達に生存のために自給自足の新しい型の食糧、衣類、住居を創り出した。第五章には「食物」、「農業」、「動物」、「衣類」などの項目に分けて、これらに關したことが取り上げられている。例えば、原住民はインディアン・コーン、ポテト、天然米、などを栽培していたので、白人達はこれらを買入れ入れたが、これらは彼等の単調な食事にいくらか多様性を添えてくれた。肉は大抵インディアンによって補給されたが、最も貴重なものは「ベミカン」と呼ばれるもので（参照七十七頁、百二十四頁）、白人達の主要食糧であった。他に食糧となるものとして、タンポポ、はしばみの実、メープル・シュガー、オート、小麦、キュウリ、ビース・オニオン、かぶ、大根、キャベツ、カリフラワー、からしな、レタスなどがあり、これは昔からこの地域のものであったが、インディアン・コーン、とうなす、かぼちゃ、豆、ポテトなどは、新しく輸入されたものである。



第二章「ノース・ウエストの住民」では、原住民の起源という民族学的な考察の紹介から始まっている。当時、

原住民の総数は四万人から六万人と推定されていたが、時間の経過とともに、白人と原住民との間に混血が生じた。インディアン女性から生れた混血児は、インディアンとして養育された。また、まれな